

NPO 法人東京高次脳機能障害協議会（T K K）2024 年度事業報告

1. 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会

一般社団法人日本損害保険協会助成リハビリテーション講習会として、zoom ウェビナーによる「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」を2回開催した。

第1回 2024 年 9 月 29 日(日)

- ① 『子どもの高次脳機能障害診療の実際と課題』
吉橋 学 氏 神奈川リハビリテーション病院小児科 医師
- ② 『脳損傷後のてんかんのつき合い方』
海渡 信義 氏 東京慈恵会医科大学脳神経外科講座 医師
- ③ 『高次脳機能障害を有する方への就労支援』
半田 真貴子 氏 東京障害者職業センター

第2回 12月22日(日)

- ① 『脳損傷者の自動車運転-健康管理の重要性-』
一杉 正仁 氏 滋賀医科大学社会医学講座 医師
- ② 『高次脳機能障害のある方の「親なきあと」～「親あるあいだ」の準備』
渡部 伸 氏 社福「親なきあと」相談室主宰/行政書士・社会保険労務士
- ③ 『交通事故後の脳外傷者に対する生活指導』
渡邊 修 氏 東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科 医師

この「高次脳機能障害実践的アプローチ講習会」は2013年度から、コロナのためにやむなく中止にした2020年度以外、27回開催、活動の柱の一つとして行っている。奇しくも12月22日の最後の講義で、丁度100講座になった。

★添付：アンケート集計

2. 高次脳機能障害者と家族のための「医療及び家族相談会」 2月4日現在

実施 3回	中止 4回	相談者数	3組
東京都心身障害者福祉センター	2回	相談者	2組
東京慈恵医科大学付属第三病院	1回		1組

相談者は母、夫、兄弟姉妹

当事者は 15歳～58歳 平均 36歳 男性 1名 女性 2名

相談内容

- ・地方に住む当事者についての対応法 ・地域での相談者 ・今後のこと
- ・復学後の生活、学校の無理解、対応方法や進路 ・家族の疲弊など

現状分析

- ・相談会への申込者が減ってきていて、中止になることが多くなった。
- ・都心障、慈恵第三病院、言語生活サポートセンター（荻窪）と会場を設けたが、交通の便など手軽に相談に来ることが出来るかどうかは不明。
- ・前理事長の場合、自宅で相談を受けた交通事故のケースなどを、相談会に繋いでいたこともあり、現在はそういうルートは無い。
- ・身近に相談できる場所が増えた？
- ・東京都以外の地方からの大変なケースもある。
- ・支援機関等を紹介すると、すでにあちこちにコンタクトしていて、それ以上のアドバイス等が難しいケース。
- ・今後の事業としてどうやっていくかを検討

3. 予算要望書

要望・提言を「予算要望書」にまとめ、都知事、東京都及び都議会の各政党・会派に提出

1. 介護保険サービスと障害福祉サービスの併用について、運用整備を求める
2. 「失語症者向け意思疎通支援事業」は地域格差の生じないように、速やかに進めていただきたい。
3. 「介護者亡き後」を見据えた生活の場の確保について、さらなる支援をお願いしたい。
4. 精神障害者保健福祉手帳または自立支援医療受給者証の更新において、症状の変化のない器質性精神症状(外因性)は2年ごとの更新手続きを見直していただきたい。
5. 障害者枠の移動支援を入院中も制度化していただきたい。

4. その他

- ・メルマガ Vol.63～65 を発行
- ・加盟団体への訪問相談会や事業所訪問
- ・一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会で発表

以上